



八日市まち協だより

第74号

令和7年3月発行

令和6年度

防災プロジェクト普通救命講習会

防災プロジェクトでは、令和7年1月26日（日）に普通救命講習会を実施しました。講習会は救命処置（心肺蘇生法、AEDを用いた除細動）と、気道異物除去や止血法などの応急手当の知識とスキルを取得することで、大切な人や家族の尊い命を守ることを目的としたものです。今回は31名の参加がありました。

救命措置の実践や知識が習得できてよかったこと、定期的な受講が望ましいとの感想をいただきました。防災プロジェクトでは今後も、災害や緊急時に地域で命を守るための様々な研修を計画していきます。

松村栄士さん



参加者の声を紹介

○「ひとりでも多くの方に AED の体験をしてもらいたいと思った。トリアージの知識も必要で、地域のつながり強化が必要と感じました。」

○「久しぶりに参加したので、忘れていたこともあり思い出せてよかった。定期的に参加したほうが良いと感じた。」

○「実践をとおして身につけられたのがよかった。しばらくすると忘れそうなので定期的に受けることが必要と感じた。大切な命をまもる研修なので、機会があればまた受けたい。」



冬の天体観測会・ 「かまどベンチ」で火起こし

金屋

1月25日（土）、金屋地区は金屋女性会主催で、ふれあい広場において午後5時30分から7時30分まで、冬の天体観測会を行いました。地域の方が望遠鏡を出していただき、まるで三日月のような形の金星、何本かの縞模様と衛星を伴った木星、たくさんの星々の集まったスバル、ぼおとした光のかたまりのオリオン座大星雲等を観ることができました。

よく晴れてとても冷える中にもかかわらず40人余りの方が集まっていただき、冬のさまざまな星座も含めて、みんなで星空を楽しみました。

天体観測をやっている横では、自治会役員さんたちが公園のかまどベンチで火起こしをしてくださり、ホットカルピスやコーヒーを飲みながら暖を取り、子どもたちは公園で遊び、大人たちは話に花が咲きました。

かまどベンチはいざというときの備えです。でも寒い秋冬の行事でも、とても有り難い存在です。かまどベンチが、地域の皆さんの身近な存在であるといいなと思いました。

荒川貴美代さん



ふるさと絵屏風セミナー松崎町

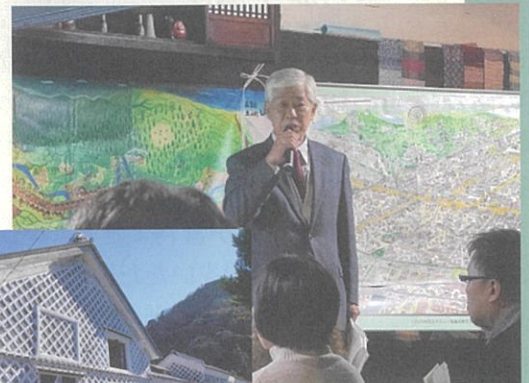
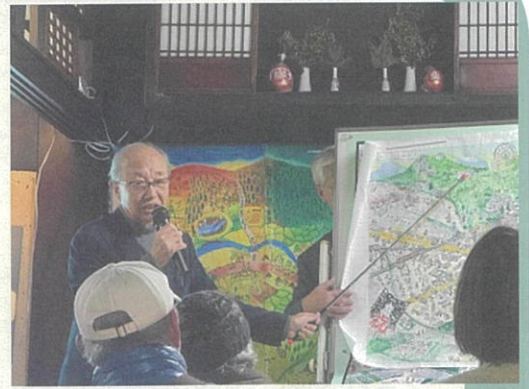
静岡県松崎町で開催されたふるさと絵屏風セミナーに、歴史文化プロジェクトの白木、浦根、中島が参加しました。

昨年1月にこれから絵屏風を作成しようとする松崎町の方が、八日市コミセンに来られ、絵屏風作成の経緯や方法などについてたずねられ、意見交換をしました。そんな交流から、12月21日に松崎町のセミナーに滋賀県立大学の上田先生を講師として、土山と神奈川県葉山そして八日市の絵屏風を紹介されました。

松崎町は伊豆半島の西南に位置する漁港の町です。いたる所に「なまこ壁」があり、昔そのままの建物が数多く残る歴史ある町並みです。それが今でも利用されていて魅力あるところです。

当日会場には高校生から高齢者まで約35名の方が参加されて、絵屏風の素晴らしさと作成の苦労話や完成後の活用など、熱心に聞いておられ予定時間をオーバーするほどで、とても有意義なセミナーでした。松崎町の絵屏風が素晴らしいものになるように応援するとともに、全国に絵屏風仲間が増えることを期待しています。

浦根悦夫さん



ぽっぷ八日市に新メンバー

子育て支援サークル「ぽっぷ八日市」は、幼稚園や保育園へ通っていない幼児（未就園児）とその保護者の交流の場のために開いている遊びの広場です。

主な活動は、「人形劇・パネルシアターの鑑賞」「季節の行事の飾りづくり」「リトミックや運動遊び」「さつまいもの苗植え・収穫の自然体験」などです。講師や支援センターの方々にも来ていただき親子で楽しんでいただいています。

今年度からは「ぽっぷ八日市」を卒業されたママさん方もスタッフに加入され、活動にも大変おおきなパワーとなっています。また、参加者に大人気のサークルキャラクター「ぽっぷちゃん」が、クリスマスなどのイベントに登場し、ママさん方がお互いに撮影し合い交流される様子がみられました。

3月は、「ぽっぷ八日市」を卒業し幼稚園や保育園へ進級されるお子さん方とのお別れ会の月です。寂しくもありますが、一年の成長はスタッフの喜びとなっています。

石黒妙子さん



こんな本ありました！



八日市に無くてはならない近江鉄道。存続か廃線か、8年間の議論の末に存続が決まり、令和6年4月1日から公有民営の上下分離方式で近江鉄道の運行がスタートしました。その協議会で座長をされた土井勉氏が、地方ローカル鉄道の存続問題や近江鉄道の存続がどの様にして決まったのか、沿線地域や企業の取り組みなど資料を交えて一冊の本にまとめられました。

ジュニア新書からの発刊で、中学生でも興味深く読める内容になっています。本はコミセンにありますので興味のある方は是非お読みください。

山下勝司さん



「ガチャコン電車血風録
地方ローカル鉄道の物語」
岩波ジュニア新書

旧八日市市には表しは違おうが、「かんじょう」と呼ぶ小字名が数多く存在する。勧請（野町、外町）、勘定（林田町）、上勘定（野町）、下勘定（野町）、勘定前（妙法寺町）、勧丈（上町）、神祥（下大森町）、神縄（尻無町）、南神縄（尻無町）、神定木（上大森町）、かんじょう（今田居（今代）町）、西かんじょう（林田町）、南かんじょう（林田町）の14例を数える。

「かんじょう」はいずれも勧請吊り行事に由来する。村人達は集落の外を異界とし、悪霊、災害、疫病は異界から普段に往来する道を通して侵入すると考えた。異界からの侵入を防ぐために集落の出入り口に道切り（道断り）と称して、道を遮断して道の両側の立木や柱に注連縄（しめなわ）に似た勧請縄（かなわ）を取り付けた。注連縄が正月の飾りとして年末に付けるのに対し、勧請縄は正月明けから一月中旬に

あれやこれや

其の三十

勧請吊りの巻

取付けられる。作成から取付けまでが集落の女人禁制の行事として市内各所で実施される。

勧請縄の形状は様々であるが、多くは餅（もち）米の藁を左巻きに撚った主縄（大縄）に、月の数を表す12本（閏月のある年は13本）の下げ（縄小縄）を撚り込み、更に中央部に草鞋（わらじ）、祈禱札や杉の葉を順に繋いで輪の形に加工したトリクグラス（意味は不明、鳥居潜らずの意？）を取付けたものが一般的である。

勧請吊り行事の起源は判然としないが、14世紀頃から続く行事と考えられる。滋賀、福井、京都、奈良、三重に広く分布する。滋賀県では旧八日市市に多く、取分け御園地区、玉緒地区に集中する。



芝原町の勧請縄

森野吉雄さん

1月初旬にまとまった降雪があり、2月中旬には大寒波の襲来により全国的に災害級の降雪・積雪量がもたらされました。

公共交通機関の停滞や道路における通行規制などによる物流への影響、通勤時間帯への支障などが、ニュースで多々放送されていました。

八日市地区においては、幸いにも例年とほぼ同じ程度の降雪量で、雪退けに汗を流すくらいに積雪で済んだように感じました。夜は月明かりで窓の外が明るくて、樹木の影を幻想的に雪面に落としていました。

さて、滋賀県内の過去最高の積雪量は？と問われると、昭和2年2月14日に記録した積雪深11m82cm、標高1377.4mの伊吹山山頂にて確認されていて、積雪量としては、現在でも世界一のようです。

当時の市街地でも相当量の積雪と想像すると、災害級を超えているように思えます。子どもの頃には、竹製の自作スキー板で雪の山道で遊んだ記憶のある方もおられると思います。ここ数十年の間に降雪量も減少してはいますが、窓の外に雪明かりを楽しむ程度の積雪量が嬉しいですね。

3月に入り暖かい日を待ち望む時期になりましたが、小祭り時期に雪が降ることもあり、先程の伊吹山では、まだまだ雪山遊びが楽しめます。今冬季の最後に、なごり雪を楽しむのは、いかがでしょうか。



川村信蔵さん



片言隻句

編集
発行

八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内
IP電話 050-8034-1141 電話・FAX 23-4120
E-mail 8comi920@e-omi.ne.jp



Instagram



LINE



Facebook



まごころ

発行：八日市地区社会福祉協議会・八日市地区民生委員児童委員協議会

令和 7 年 3 月

障害者福祉研修

車いす体験とモルック

地区社協では昨年からの障害者福祉研修を行っています。

今年度は9月に、実際に車いすに乗ってみる体験と、段差介助の体験をしました。車いすに乗った状態で、段差や狭い通路、高い位置と低い位置の確認、多目的トイレに入りました。

実際に乗ってみると、地面に落ちているものを拾うのも、高い位置にあるものを取るのも難しく、自動で閉まってしまつドアにも手間取ります。

今回の研修を通して、障害への理解が深まり、困っている場面を見かけたら「なにかお手伝いしましょうか」「お困りですか」と声かけができるようになることも、狙いのひとつです。皆さん安全に気をつけながら、介助側にまわったときは「進みます」「下がります」などのコミュニケーションをとりつつ参加されていました。

後半は、スポーツ推進委員さんの指導のもと、車いすに乗ったまま、「モルック」を行いました。

「モルック」は、木の棒（モルック）を投げてスキットル（木製ピン）を倒すチームスポーツです。

座った状態で行うと重心移動が制限され難易度が上がりましたが、回数を重ねるとピンを狙ってモルックを投げられるようになっていきます。

ゴールの五〇点を目指し、楽しんで体験することができました。



地区社協研修 認知症・フレイル予防講座

地区社協では、ご興味のある方はどなたでも参加していただける無料の研修や講座を実施しています。11月には、認知症・フレイル予防講座『メンタルヘルスの視点から』を実施しました。滋賀県健康管理士会 森 範巳さんより、いつまでも心身ともに健康にすごすために必要なこととお話いただきました。ストレスへの対処法、規則正しい生活、社会とつながっているという実感など、基本的なことですが、やはり日々の継続が健康への近道ようです。

《歳末助け合い活動》

今年も八日市地区シニアクラブ連合会さまより、歳末一元募金のご寄付をいただきました。

物価高騰がつづくなか、募金活動を継続していただき、ありがとうございます。